

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 有井 巴

有井巴氏の論文 *The Acquisition of English and Japanese Measure Phrase Comparatives* (和訳「英語と日本語の度量句を含む比較構文の獲得」)は、比較級に付随して出現する度量句に、子供の場合、英語日本語とも六歳ぐらいまで大人と異なる意味解釈を与えていることを一連の綿密な実験によって立証し、それがどのようなメカニズムによって生じるかを論じたものである。大人の文法における度量句の働きについての理論的研究は近年盛んに行われているが、子供については、*meter* や「メートル」など通常の計量単位をまだよく理解していないという事実にも阻まれ、詳しい調査はあまり行われていなかった。有井氏は、実験の場においてあらたな単位を視覚的に子供に提示して理解させるという手法でこの困難を取り除き、形容詞と度量句の関係についての様々な性質に即して子供の理解を探ることに成功した。

第1章で大人の文法における度量句の振舞いと当該構文に対する本論文で同定した子供の意味解釈が異なることを簡単に紹介した上で、子供と大人の文法システムに違いが見られる場合に言語獲得研究で一般的に取られるアプローチを概観し、第2章で形容詞と度量句がかかわる構造の意味解釈の理論分析を提示した。形容詞の意味としては、個体と程度との関係をあらわすとする分析を採用し、それに合わせた比較級の意味分析を採用している。第3章では、形容詞、その比較級、度量句という、当該構文の個々のパーツについての先行研究を紹介し、あまり研究されていない度量句はさておき、数詞も含めたそれぞれについては五歳六歳あたりになると、大人同様の理解を示していることを確認した。

第4章が本論文の核であり、六つの実験を通して、度量句を伴った比較級 (*This building is two meters taller than that one.*) の場合、比較の対象を無視して、比較級ではない形容詞に度量句が加わっている場合 (*This building is two meters tall.*) と同じような意味解釈を子供が与えていることを注意深く立証した。英語と日本語の比較級の形式上の違いとは関係なく子供が大人と異なる理解の仕方をしていることが、重要な発見の一つでもある。第5章は、このような解釈を子供が選択する原因を、比較の対象がもっている数値をゼロに設定してしまうことに求め、比較の対象が明示されている場合とされていない場合で実験結果が微妙に異なることをその根拠として指摘した。

本論文は、比較級との関係で度量句を子供がどのように理解しているかを詳細に考察したはじめての本格的な研究であり、比較級ではない形容詞と度量句の組合せの獲得との関連がどうなるのかを含めて、まだまだ考察しなければならない点は多く存在するが、逆にそれらは本論文があらたな研究領域を開拓したからこそ生じてくる疑問点だといえる。計量単位を実験での視覚情報提示で理解させて子供の理解を探るという方法論上の独創性も高い評価に値する。以上、博士(文学)の学位に値すると判断する。